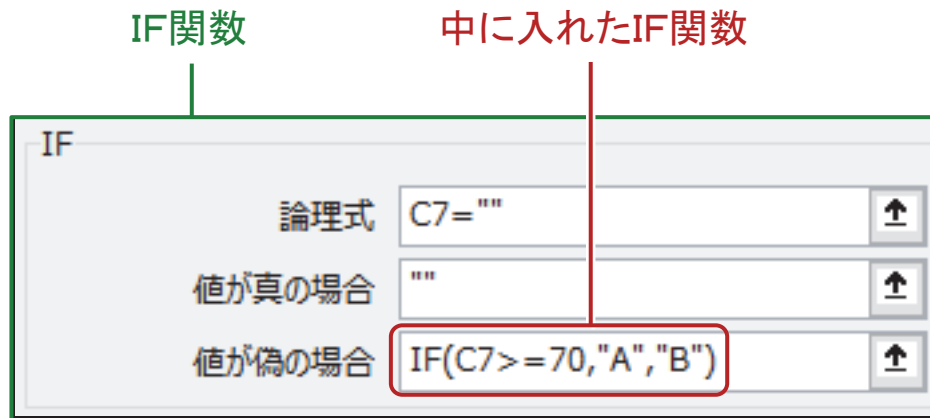


### 3-1 「関数の入れ子」とは



関数の中に関数を入れることを「**関数の入れ子**」（または「関数のネスト」）と言います。

下図は例です。IF関数の中に、もう1つIF関数を挿入しています。



関数の入れ子は、挿入手順がこれまでとは違う点がありますので、この後で確認します。

#### ● 次項の準備をする

- ① 前章で作成したファイル「成績判定表」を開きましょう。
- ② セルC10～C16を削除しましょう。

	A	B	C	D	E
6	No.	氏名	点数	判定	
7	1	赤井	76	A	
8	2	乾	29	B	
9	3	上島	92	A	
10	4	江藤		B	
11	5	大和田		B	
12	6	柿崎		B	
13	7	木村		B	
14	8	久保寺		B	
15	9	見城		B	
16	10	小谷		B	
17					

削除した後も  
[判定]が表示されて  
いる点に注目します

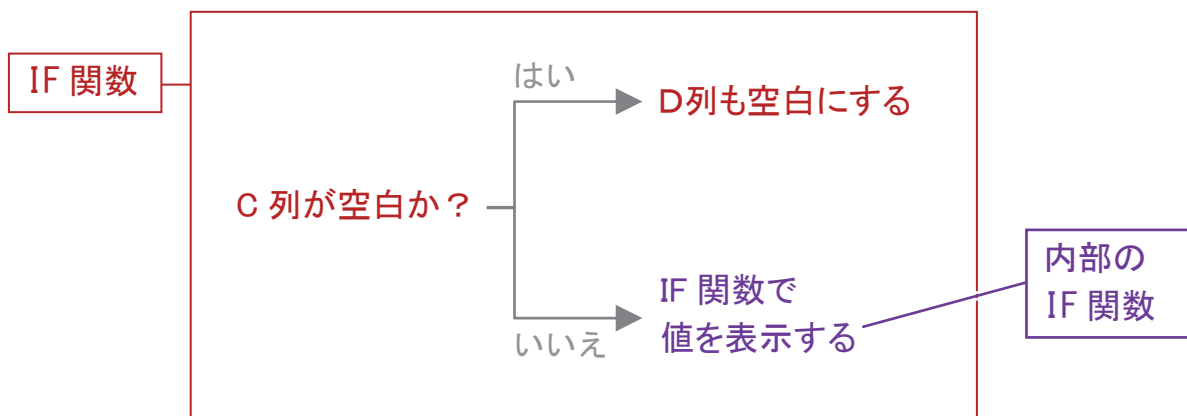
### 3-2 次項で行う内容の確認（空白なら空白にする）

関数の入れ子を使用する場面として、「もし〇〇が空白なら、空白にする」というものがあります。

下図の場合、[点数]（赤枠）が未入力ですが、[判定]（青枠）が表示されてしまっています。

	A	B	C	D	E
6	No.	氏名	点数	判定	
7	1	赤井	76	A	
8	2	乾	29	B	
9	3	上島	92	A	
10	4	江藤		B	
11	5	大和田		B	
12	6	柿崎		B	
13	7	木村		B	

そこで、IF関数の入れ子を使って [点数] が空白なら [判定] も空白にします。



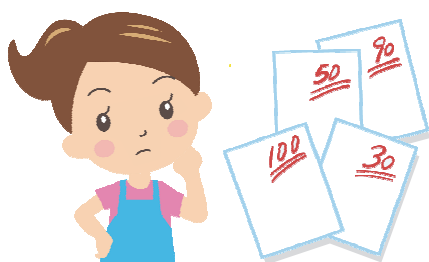
「空白なら空白にする」はよく使われるパターンです！  
ぜひマスターしましょう！

## 3-4 関数を入れ子にする (その2)

3-3で学習した関数の入れ子を、更に入れ子にする手順です。

### 1 本項で学習する内容の確認

この後、IF関数の入れ子で下記の条件を作成していきます。



点数が空白なら空白、  
70点以上なら「A」、  
30点以上～70点未満なら「B」、  
30点未満なら「C」、  
と自動で表示したい…

	A	B	C	D
7	No.	氏名	点数	判定
8	1	赤井	76	A
9	2	乾	29	C
10	3	上島	92	A
11	4	江藤	53	B

数式としては、下図のように作成します。

```
=IF(C8="", "", IF(C8>=70, "A", IF(C8>=30, "B", "C")))
```

### ● 次項の準備をする

- ① 数式を入れ直すために、セルD8～D17を一旦、削除しましょう。


## 2 入れ子にした関数を、更に入れ子にする

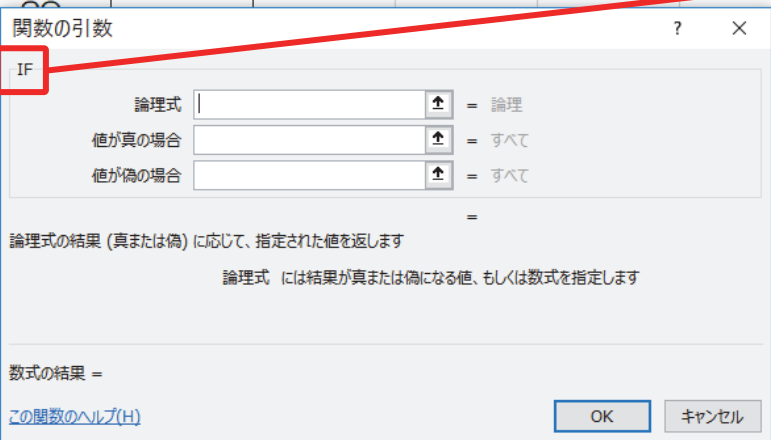
入れ子にした関数を、更に入れ子にする手順です。

セル D8 の入れ子の数式の中に、さらに I F 関数の入れ子をしてみましょう。

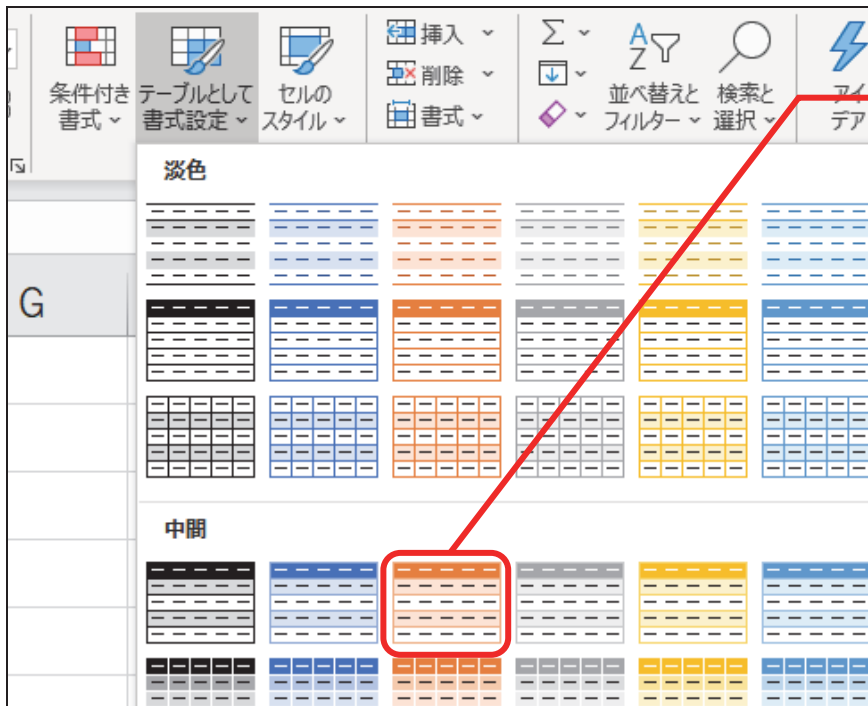
	A	B	C	D
7	No.	氏名	点数	判定
8	1	赤井	76	
9	2	乾	29	
10	3	上島	92	
11	4	江藤	53	
12	5	大和田	35	
13	6	柿崎	90	
14	7	木村	25	

① 関数を入力するセルを選択します。

②  をクリックします。

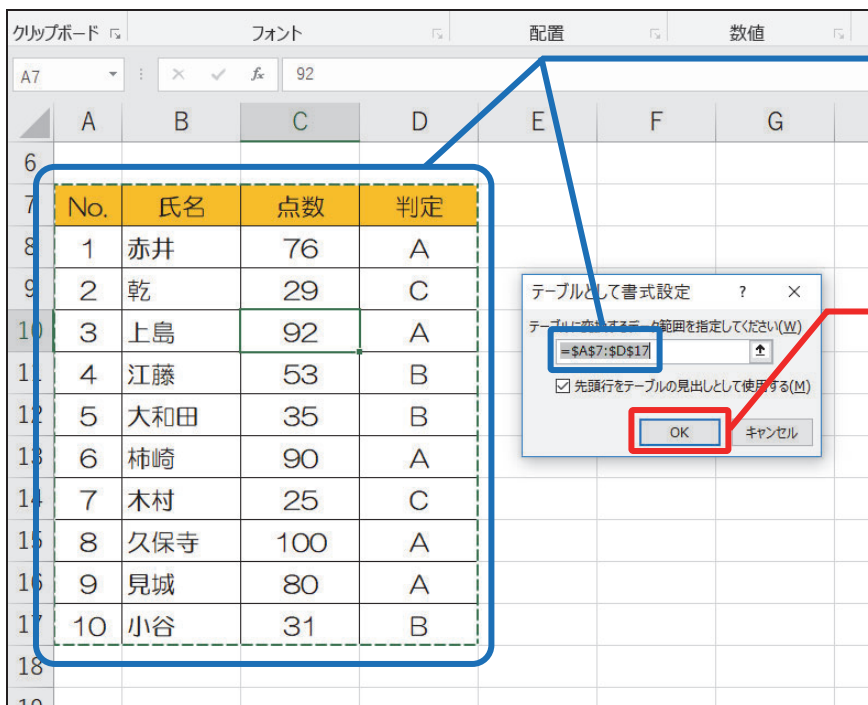


③ I F 関数の画面を表示します。



④ 任意のデザインをクリックします。

※ デザインは後から変更もできます。



※ 自動的に表全体が選択されます。

⑤ [OK] をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G
6							
7	No	氏名	点数	判定			
8	1	赤井	76	A			
9	2	乾	29	C			
10	3	上島	92	A			
11	4	江藤	53	B			
12	5	大和田	35	B			
13	6	柿崎	90	A			
14	7	木村	25	C			
15	8	久保寺	100	A			
16	9	見城	80	A			
17	10	小谷	31	B			
18							

⑥ これでテーブル機能が使える状態になりました。

※ 左図は、他のセルをクリックして選択を解除した後の状態です。

## ● 書式を消す

① セルA7～D7のセルの色を「塗りつぶしなし」に変更しましょう。

※ 変更すると、テーブル機能のデザインの色が変わります。(下図)

	A	B	C	D
6				
7	No	氏名	点数	判定
8	1	赤井	76	A

② 表全体(セルA7～D17)に「枠なし」を設定して、元の罫線を無くしましょう。

	A	B	C	D
7	No	氏名	点数	判定
8	1	赤井	76	A
9	2	乾	29	C
10	3	上島	92	A
11	4	江藤	53	B
12	5	大和田	35	B

## 4-6 テーブルの表に行を追加する

テーブル機能の表に、新しくデータを追加する場合に、行を追加する2種類の手順を確認します。

### 1 行を右クリックで挿入する

データを3件入力すると仮定して、表の最下行に空の3行を挿入してみましょう。

15	8	久保寺	100	A
16	9	見城	80	A
17	10	小谷	31	B
18	平均		61.1	
19				
20				
21				

① 行を挿入したい箇所を選択します。  
例：左図参照

12	5	大和		B
13	6	柿崎		A
14	7	木村		C
15	8	久保		A
16	9	見城		A
17	10	小谷		B
18	平均			
19				
20				
21				

② 選択範囲内で右クリックします。

③ [挿入] をクリックします。

16	9	見城	80	A
17	10	小谷	31	B
18				
19				
20				
21	平均		61.1	
22				

④ 行が挿入されました。

## 2 タブで挿入する

タブで行を追加する方法です。  
最終行に1件分の空の行を挿入してみましょう。

17	10	小谷	31	B	
18					
19					
20					
21	平均		61.1		
22					

① 表の最後のセルを選択します。

② [Tab] キーを押します。

17	10	小谷	31	B	
18					
19					
20					
21					
22	平均		61.1		
23					

③ 新しく行が追加されて、左端のセルが選択された状態になります。  
これで完了です。

### ● データを追加する

- ① セルA18~C22に、下図のように5人分のデータを追加しましょう。  
※22行目の追加は、前項の手順のうち、任意の方法で挿入してください。

	A	B	C	D	E
18	11	佐々木	43	B	
19	12	志津	35	B	
20	13	鈴木	88	A	
21	14	関口	16	C	
22	15	曾我	51	B	
23	平均		56.27		




## 5-4 VLOOKUP 関数を挿入する

VLOOKUP 関数を挿入する手順です。

「商品コード」を入力すると、「商品名」を表示するように VLOOKUP 関数を挿入してみましょう。

B6					
	A	B	C	D	E
4					
5	商品コード	商品名	単価	数量	金額
6	101				
7					
8					
9					
10					
11			合計		
12			値引額		
13			値引後合計		
14					

① 関数を挿入するセルを選択します。  
例：セル B6

②  「関数の挿入」をクリックします。

③ VLOOKUP 関数を表示します。

④ 「検索値」欄にカーソルがあるのを確認します。

単価	数量	金額
----	----	----

関数の引数

VLOOKUP

検索値

範囲

列番号

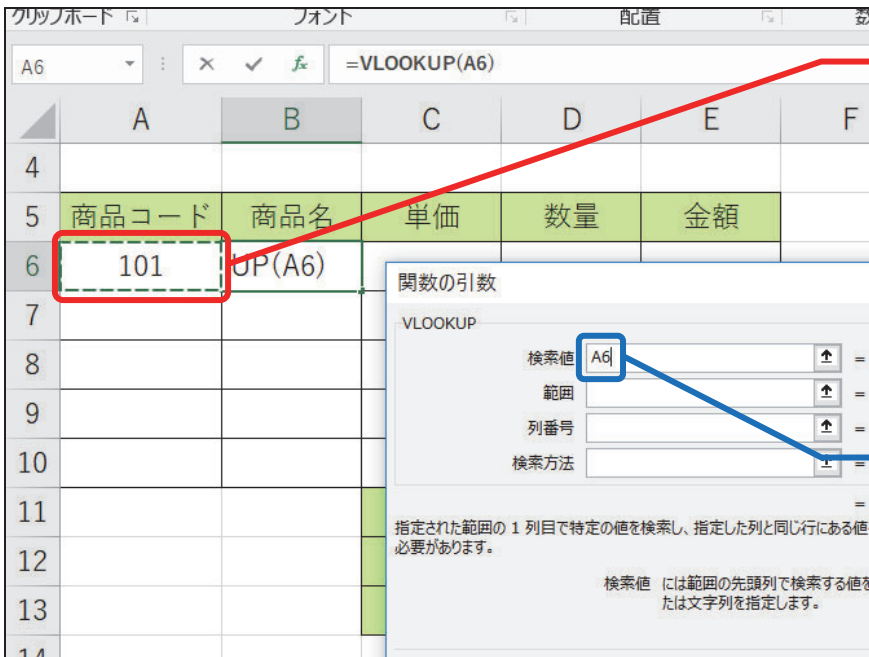
検索方法

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替える必要があります。

検索値 には範囲の先頭列で検索する値を指定します。検索値には、値、セル参照、または文字列を指定します。

数式の結果 =

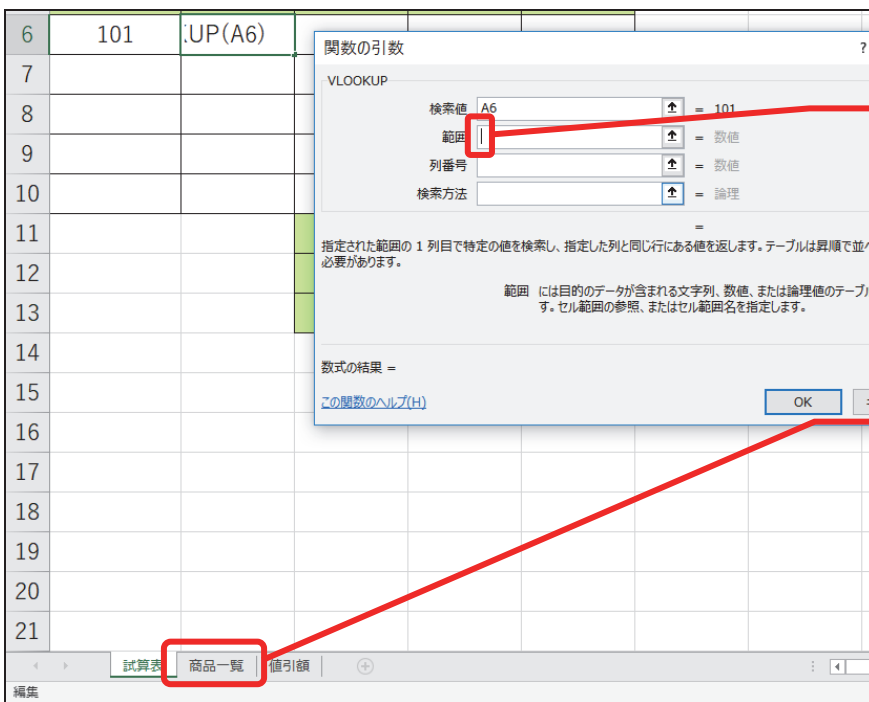
[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル



⑤ 検索値となるセルを選択します。  
例：セル A6

※ P.62 の 1 参照

※ 「検索値」欄に選択したセルが挿入されます。



⑥ [Tab] キーを押して、[範囲] 欄にカーソルを移動します。

⑦ 検索先の表があるシートをクリックします。  
例：商品一覧